

団体ヒアリング結果まとめの修正について

※ 表の前の 5 行の文章は、「・・・わかった」などははぶき、客観的に伝えた方がよい。

協議会において、周辺まちづくりについて各団体の想いを聞くために、平成 30 年 8 月から平成 31 年 1 月にかけて、事務局が各団体にヒアリングを行った。伺った内容は多岐に及ぶが、1.団体の歴史・変遷、2.旧クリーンセンターについて、3.クリーンセンター運営協議会について、4.新クリーンセンターについて、5.周辺まちづくりの課題。想い、6. まちの未来、以上 6 つのテーマに分類した。なお、この結果は、ヒアリング参加者それぞれの想い・考えも含まれており、団体や個人の立場により受け取り方に差異があるため、事実以外はなるべく参加者自身の発言に沿って記述している。・・・以下同文

武蔵野緑町パークタウン自治会

<団体の歴史・変遷>

昭和 32 年に入居開始 (1019 世帯)・・・(中略)・・・建て替えにより、現在の 855 世帯の団地となった。平成 8 年武蔵野緑町パークタウンと名称を改めた(優先入居 120 世帯として、240 戸の都営住宅が建設された)。※ここで改行

高家賃化になるため・・・(以下修正なし)

<旧クリーンセンター>

昭和 59 年のクリーンセンター建設は、地域のコミュニティを育む、1 つのきっかけとなった。※ここで改行

団地のすぐ近くに建設されたことから、安全・安心のために運営協議会に参加し、30 年間施設を監視し、住民に報告を続けてきた。※ここで改行

事故や問題などが起こる度に、自治会で共有し議論してきた。

<新クリーンセンター>

長い間工事が続いている。深夜にも及んだ工事だが、市民にとって必要なものと考え、受け入れている。※ここで改行

工事中から見学会などに取り組み、講演会にも参加を呼びかけ、より身近な施設として住民に関心をもってもらう努力をしている。※ここで改行

自治会は、新クリーンセンターをなぜ再びここに受け入れたか、どのような施設かなど、住民に伝えていくことが大切と感じている。※ここで改行

以前はイベントなどは必ず計画段階から報告があり、時には一緒に取り組んできたが、DBO 方式で運営事業者が新施設のイベントなどを行うようになり、クリーンセンターの活動が見えにくく遠く感じるようになった。運営事業者との懇談会が必要である。信頼関係あってこそそのパートナーシップが武蔵野方式の市民参加となる。※ここで改行

運営事業者は、イベントなど企画段階から市民と一緒に取り組み、想いや課題を共有して

いくことで、クリーンセンターの価値を高めていくことが大事である。

<周辺まちづくり 課題・想い>

団地の建て替えをきっかけに、それぞれがこれまで住んできた団地の魅力に気づき、まちを考え、自分たちの想いを伝え、意見交換しながら議論を広げて、まちづくりへの想いを共有してきた。

住民にとって大切な「土と緑とコミュニティ」をコンセプトとして主張し、団地が建て替えられた。住み続けたいという住民の想いや、団地の建て替え計画を外に開いたことで、周辺の方々とともに取り組むまちづくりにつながっている。

現在 11 団体参加となった緑懇話会も 30 周年を迎えた。

都営武蔵野緑町二丁目第 2 アパート自治会

<団体の歴史・変遷>

武蔵野緑町団地・・・中略・・・平成 4 年から建設省にも要請するなど 8 年がかりで運動し、日本住宅・・・

「まとめ案」の修正

P37

見出しの変更を

まちづくりとの連携→**市民と行政のまちづくりの連携**

2 行目 緑の回廊→緑のつながり

3 行目 拡充することができた。**中島飛行機武蔵野製作所の旧変電室**を含む歴史・・・

5 行目 大型スーパー「サミット」の・・・